

2018/10/31

国際文化学部国際文化学科 3 年

16011004 市木陽

中国と日本のキャッシュレス社会

これまでのレポートでも述べてきたように、日本より中国の方が社会インフラの面で進んでいる分野も少なくなく、その一つにキャッシュレス決済が挙げられる。中国はキャッシュレス化が非常に進展している国の一つであり、スマートフォンなどのモバイル機器による電子決済が主流である。

今回のレポートでは、第三回のレポートを踏まえ、キャッシュレス化が急速に発達する中国のモバイル決済について掘り下げ、またキャッシュレスがまだ普及していない日本におけるキャッシュレス決済についても述べていく。

1. 中国のモバイル決済

この 5 年間の間で、中国では現金を使わないモバイル決済が主流となり、キャッシュレス化が急速に進んだ。モバイル決済は、スマートフォンなどを利用した電子決済サービスで、現金を持つことなく、様々な支払いや交通機関の利用が可能となる、非常に便利な支払い方法である。実際に、私もスマートフォンアプリでのモバイル決済を頻繁に利用しているが、私自身も非常に便利な支払い方法であると実感している。今や中国では、モバイル決済は生活を送る上で欠かせない社会インフラとなっている。

中国でモバイル決済がここまで急速に発達した背景として、個人向け銀行サービスが十分に発達していなかったことが挙げられる¹。中国では、銀行口座を持っているものの、銀行による各種サービスの提供は限られたものであり、小売店での銀行カード決済は普及しなかった。一方で、偽札など現金決済のリスクが残る中、モバイル決済は販売側にとっても決済手数料や導入コストが安いというメリットが大きい。そのため、QRコードなどを利用したモバイル決済は、露天や自動販売機にも急速に普及した。その結果、中国のモバイル決済は、段階的な発展過程を経ずに、一気に普及する現象が起きた。

モバイル決済により、市場規模は急拡大し、実店舗での利用人数は 5 億人を超えていると言う。中国でのモバイル決済は、商品購入や個人間の送金や投資商品、保険商品購入などの取引にも使われており、その取引総額は 2016 年から 2017 年の間に市場規模が急拡大しているという。2017 年の実店舗のモバイル決済利用人数は、2016 年と比べても増加してお

¹ 参考文献 『モバイル決済』が急速に普及した中国

<https://www.smam->

jp.com/documents/www/market/report/keyword/china/key180618ch.pdf (2018/10/29)

り、これは中国の生産年齢人口（16才～59才）の約9億人の半分以上に当たるといふ。

モバイル決済が広く普及したことで、中国では出前サービスなど新たなサービスが生まれている。また、実店舗とインターネットを連携したサービスにより、その場で注文・決済が可能であるという便利さもあり、短期間で拡大している。今後も中間所得層の増加やスマートフォンの更なる普及に伴い、より良い暮らしや利便性へのニーズが高まり、様々なサービスが発展するとみられる中、モバイル決済市場の拡大は続き、キャッシュレス化はさらに進むとみられている。

2. 日本におけるキャッシュレス化の現状

日本では、キャッシュレス決済比率は約2割にとどまるなど、世界的にも珍しい現金主義国といえる²。治安が良く、偽札も少ないことから現金に対する信認が高く、ATMなどの金融インフラも十分に整備されているといった、日本ならではの良さ故に消費者がキャッシュレス決済の必要性を感じていないことがその背景の一つとして考えられている³。

そんな中、訪日外国人の増加に伴い、とりわけ人気の観光スポットではキャッシュレス決済のニーズに対応する動きがみられるなど、最近日本では現金を使わないキャッシュレス決済の推進機運が高まってきている。日本政府は、2020年の東京五輪を視野にキャッシュレス化を推進しており、2027年までにキャッシュレス比率を4割程度にすることを目標にしている⁴。2020年の東京五輪や訪日外国人観光客の決済需要への対応だけではなく、ビッグデータ分析による消費の活性化効果や少子高齢化で労働力不足に直面する日本にとって社会全体でキャッシュレス化を進め、生産性を高めていく意義は非常に大きい。

キャッシュレスは、外国人観光客の誘致によるインバウンド消費の取り込みだけではなく、様々な効果が期待できる。例えば、実店舗での無人化省力化や不透明な現金資産の見える化、支払いデータの利活用による消費の利便性向上や消費の活性化などが見込まれている。

3. 日本でキャッシュレス決済が普及するためには

今後日本でキャッシュレス決済が普及するためには何が必要なのだろうか。

例を一つあげると、QRコードを使用した決済システムに、日本でもいくつかの企業が参入し徐々に広がりつつある。

このQRコード決済は、カード決済に比べると手数料が安く、スマートフォンやタブレッ

² 参考文献 『キャッシュレス』化で期待されるメリットとは？

<https://www.smam-jp.com/documents/www/market/report/keyword/japan/key181026jp.pdf> (2018/10/29)

³ 参考文献 キャッシュレス後進国 日本の巻き返し

<https://meti-journal.jp/p/2376> (2018/10/29)

⁴ 参考文献 経済産業省「キャッシュレス・ビジョン」

<http://www.meti.go.jp/press/2018/04/20180411001/20180411001-1.pdf> (2018/10/30)

トを使用して導入することもできるため、利用の幅が広がると期待されている。しかし、そこで二つの問題が立ちはだかると考えられている⁵。それは、コストと IT リテラシーの問題である。コストについては、導入する企業や店舗に対して、顧客層の拡大や支出単金の上昇、経理処理の簡素化などのキャッシュレス決済によるメリットをしっかりとアピールすることが必要である。また、決済事業者はキャッシュレス決済によって集めた決済データをマーケティングや商品開発に活用し、決済手数料をさらに下げていく必要があるとみられている。IT リテラシーについては、QR コード決済にはスマートフォンが必須となり、使用したことがなく、保有率も比較的低い高齢者層の利用は期待できないといえる。高齢者層にはカード決済のような簡単な決済方法の方が利用しやすいだろう。

一口にキャッシュレス決済と言っても、サービス形態は多様化しており、どの決済方法を導入するかは、利用者ニーズや企業戦略によるところが大きく、日本人の文化や価値観、国民性など様々な要素を考慮し、日本に合ったキャッシュレス決済サービスを導入していくことが重要であると考えられる⁶。

4. おわりに

日本において今後、キャッシュレス決済を導入することで、現金の維持や管理する労力が削減できる。また、顧客との接点の増加や購買データに基づくマーケティングは新たな価値創造や収益向上をもたらす可能性を秘めているとみられている⁷。今注目を集めているキャッシュレス決済方法である QR コードでの決済サービスには、金融業界以外の職種からの参入も相次いでおり、新たな決済方法として積極的に取り入れる動きが日本で急速に広がっている。キャッシュレス決済という決済方法が日本の社会や人々にとって適しているかどうかは定かではないが、世界各国のキャッシュレス化に伴い、日本のキャッシュレス社会の発展が求められており、日本はキャッシュレスという課題と真剣に向き合う必要があると私は考える。

⁵ 参考文献 キャッシュレス決済について考える

<http://www.icr.co.jp/newsletter/view20181019-deguchi.html> (2018/10/29)

⁶ 参考文献 観光地に押し寄せるキャッシュレスの波

<https://meti-journal.jp/p/2486> (2018/10/29)

⁷ 参考文献 現金管理から解き放たれた先に見えてくる価値

<https://meti-journal.jp/p/2548-2> (2018/10/29)